

バイオサイエンス学科 学会発表

【発表者について】アンダーラインは本学教員、研究員および技術職員、○は発表者、※は大学院生、卒研生または卒業生

学会名	第39回日本分子生物学会年会
演題名	リボソームリサイクリング因子RRFはORF接続部UAAUGでmRNAをリボソームから遊離させる
発表者	○井口義夫、 <u>平島昭和</u> 、Fabio Quaglia、Sharma Sandeep、梶日出子、梶昭
内容	翻訳の最終段階はmRNAがリボソームから離れる反応です。この反応にはタンパク質因子のリボソームリサイクリング因子（RRF）が必要です。一方、リボソームがmRNAに結合するにはmRNA上に結合配列RBSが必要ですが、同じmRNA上で2個の遺伝子が隣接しているときにはRBSは不要で、上流遺伝子の翻訳を終えたリボソームが引き続いて下流遺伝子を翻訳します。しかしながら、このときは、翻訳を終えたリボソームがRRFにより一旦mRNAから離れた後、下流遺伝子に結合して翻訳を開始することを明らかにしました。